1894年庄内地震直後の地域刊行物

―「山形県震水災概況」を中心に―*

北海道大学　鏡味　洋史
秋田大学地域防災減災総合研究センター　水田　敏彦

1. はじめに

1894年庄内地震は山形県庄内地方に死者726名，全壊家屋3858棟などの多大の被害を生じたM=7.0の内陸地震で，1891年濃尾地震を契機に発足した震災予防調査会にとって最初の大地震であり，震災予防調査会報告に多くの被害調査報告がなされている。同時に地震に関する地域刊行物も多く残されている。本論では，これらの地域刊行物を概観する。1894年の山形県では水害にも見舞われておりそれらを含む「山形県震水災概況」について内容を紹介する。

2. 1894年庄内地震の直後に発刊された地域刊行物

筆者らは，この地震について被害調査に関する文献調査を進めるにあたり文献収集を行い地震の直後に地元で5冊の刊行物が出版されていることを示している[1)]。

以下に，出版日の順に並べ比較する。これらの書籍は国会図書館デジタルコレクションに収録されており閲覧複写して利用した。

① 太田文輔：荘内震災録[2)]
② 鶴廼舎主人述菅原教敏編輯：東西田川飽海三郡甲午大地震記[3)]
③ 両羽震災取調所編纂日向源吉編：悲愴惨憺両羽地震誌[4)]
④ 佐藤多治郎：荘内明治震災録[5)]
⑤ 渡辺九十九：山形県震水災概況[6)]

3. 先行研究

これらの地域刊行物を扱った先行研究を参照しておく。岸上[7)]は1968年に庄内の文献調査を行っており地震研究所彙報に報告している。地域刊行物の③と②を取上げ，被害について詳細に記載されているが，被害統計は途中の段階のものである事を指摘している。

北原[8)]は「災害と写真メディア」で庄内地震を取上げ，黎明期の写真，それらを補う挿絵がどう取り扱われたかに着目し議論している。その中で，地域刊行物の②，④を取上げている。

---

*Local publications issued just after the 1894 Schonai earthquake: Focusing on the book of “Overview of the earthquake and flood in Yamagata prefecture”　by Hiroshi Kagami and Toshihiko Mizuta

4.　地方出版物の概要

5 冊の刊行物について，著者，特徴について述べる。著者については，経歴等を国会図書館デジタルコレクションで同時代の人名録などの文献を検索し参照した。《　》内に著者の注を記す。

①荘内震災録 [2)]

11 月 12 日の発行で地震後 3 週間で山形の出版社より刊行されている。著者の太田文輔は 1881・1899 年に山形新聞の仮編集長であり山形市香澄町在住であったことが判明した。新聞関係者であったためか，いち早く新聞記事等をまとめた内容で挿絵の引用，被害統計を含む。3 銭で市販されており，新聞のダイジェスト版としての需要があったものと思われる。

②東西田川飽海三郡甲午大地震記 [3)]

鶴廼舎《つるのや》の主人の口述を菅原教敏が活字に起こしている。奥付には編輯兼発行人として鶴岡町の菅原教敏の名が掲げられているが，経歴などは鶴廼舎主人を含め分らなかった。和綴本で見出しが付けられ，小話の集合体として口語体で綴られ挿絵，被害統計を含め著者の書下ろしで再編されている。16 頁の冊子で定価の表示はない。

③悲愴惨憺両羽地震誌 [4)]

著者は「両羽震災取調所」編纂，「東京 今村次郎」助纂となっており，今村次郎は当時の速記者（1868−1937）として編纂に関わったと思われる。編輯兼発行者は鶴岡の日向源吉となっている。山形県荘内実業家伝 [9)] に書籍商として日向源吉が掲げられている。1868 年生まれで小学校教員を経て 1890 年鶴岡で書籍商を営んでいる。各種の情報を集大成したもので 159 頁と大部で 65 銭の定価が付けられている。

④荘内明治震災録 [5)]

著者の佐藤多治郎は，1913 年発行の山形県之自治 [10)] に東田川郡藤島村《現：鶴岡市》収入役とある，地震当時の役職等は分からないが村政に関わっていたものと推察される。本書は翌年 2 月に発刊されている。冒頭頁の「凡例」では『本書編述の要旨は汎く販売を目的とするに非ずして只知己有志間に頒布し以て将来の参考に資するにあり，故に事実は実地見聞する処と其筋の調査を主とし以て正確を期せり』と述べている。第 1 章：地震とは何ぞや，第 2 章：古来出羽の大地震，第 3 章：庄内大地震前の情況，第 4 章第地震当時の情況，第 5 章：大地震后の有様，第 6 章：将来家屋の構造法，第 7−9 章：飽海・東田川・西田川各町村の被害，からなる。

⑤山形県震水災概況 [6)]

著者の渡辺九十九（1852～1909）は荘内日報社「郷土の先人・先覚 250」[11)] によると，政治家であり 1889～1901 まで飽海郡南平田村長の後，郡会議員，県会議意を歴任した。当時鉄道のなかった酒田への鉄道敷設運動にも情熱を傾け，地方史の編纂などを行っている。公的資料の集大成を行ったもので詳細な統計資料，各種の請願関連の資料等も掲載している。出版は翌 1895 年 2 月であり非売品としている。

山形県では同年地震のみならず，5 月の山形大火，8 月の飽海郡の水害さらに 12 月には最上川の中上流部の水害に見舞われており，それらを含めた記録となっている。次章では本書の詳細について述べる。

表 1 に 5 冊の地域刊行物を比較して示す。

表 1　直後に発刊された地域刊行物の比較

文献	①[2]	②[3]	③[4]	④[5]	⑤[6]
題名	荘内震災録	東西田川飽海三郡 甲午大地震記	悲愴惨憺 両羽地震誌	荘内 明治震災録	山形県 震水災概況
発行日	11/12	12/20	12/30	翌年 2/15	2/18
発行所	山形市	鶴岡町	鶴岡町	山形市	飽海郡南平田村
著者	太田文輔	鶴廼舎主人述 菅原教敏編輯	両羽震災取調所 編纂日向源吉編	佐藤多治郎	渡辺九十九
頁	16	53	159	48	202
価格	3 銭	―	65 銭	非売品	非売品
特徴	新聞記事のダイジェスト	書下ろし	集大成	知己に頒布	公的資料集大成 【含水火災】

5.　山形県震水災概況

5.1　目次と概要

『山形県震水災概況』[6] の目次と内容を以下に示す。

・明治 27 年山形県震災概況

まず「荘内震災義捐金募集の檄」を引用し被害概要を述べている。漢語が多用されている格調高い文章である。本文では本年の県下の災害について 5 月の山形市の大火で 2359 焼失，8 月の飽海郡の暴雨：鳥海山欠，月光，日向川氾濫，12 月の最上郡の水害について述べている。山形は東京より遠く鉄道の便なし，戦争《日清戦争》で国庫・民間の義捐金は少ない飽海郡では水害の後の地震で被害大であることを訴えている。被害概要として：全潰 3773，半潰 2440，大破 8667，死者 731，負傷 966，斃牛馬 400，公共復旧費概算：70 万円をあげている。

・山形県震災被害一覧表

市町村別の詳細な被害一覧表が掲載されている。飽海郡は酒田町，松籟町外 25 村，東田川郡は 18 村，西田川郡は 4 村を横欄に，縦欄は全戸数，全焼・全潰・半潰・破壊を（家屋・官公署・学校・社寺・倉庫類・小計）別に，死亡者・負傷者を（男・女・計）別に，斃牛馬を掲げた大判の一覧表である。

・震災物件及価格概算表

前掲の 3 郡町村に各河川水利組合を加えた単位で集計している。集計項目は種別【箇所数と損害額】で田・畑・山林原野・道路・橋梁・樋管溜池・堤防・溝渠用水路・学校・神社・寺院堂塔仏閣である。

・山形市外拾郡一市水災被害物件調査票

水災被害の郡別一覧表で死傷・建造物・耕地・山林・橋梁・堤防・道路・船舶の被害一覧であり，山形市は堤防に若干の被害があるのみである。飽海郡はこの表に入っておらず，次表に別途掲げられている。

・飽海郡月光日向川両河水災物件及損害概算表

8 月の飽海郡月光日向両河川の水害については別途この表にまとめている。死者 22 人，建物流失 51・浸水 1212 戸等が件数と被害額が記載されている。この 8 月の水害では最上郡でも被害を受けているが 12 月の水害による被害との分離が難しいので算入していないとの注釈がある。

・明治 27 年 5 月 26 日山形市焼失財産統計表

焼失建物個数 2359（家屋 1128，土蔵 347，小屋 884）の山形市 17 町別の被害額一覧が掲げられている。

・震災復旧工事設計予算表

震災復旧工事設計の予算表であるが水災による分も含めている。12 月の南村山郡他 7 郡の水害分は含まれていない。

・尋常小学校舎建築復旧費及経常費予算表

当時各町村に 1 校づつあった尋常小学校の統計表である。

・震災被害地国税並町村税水利費比較表

各町村別の一覧表であるり，国税・県税・町村税・普通水利及水害予防組合費の一覧表である。

・上野村 内相 済民書

三郡震災救済委員連署の嘆願書であり，以下３件の嘆願が続く。

・国税特別処分法を制定し山形県震災地飽海東西田川三郡罹災民を救済せられん事を請うの書

・酒田私設鉄道利子補給に関する請願

・最上川治水の儀に付請願

5.2 付図：山形県震水災概図

付図は山形県震水災概図と題し，河川を詳細に記した山形県全図に水災の範囲（月光川・日向川），（最上川支流鮭川），（最上川中・上流）と庄内地震の劇震地（飽海郡酒田周辺・東西田川郡の一部）が詳細に記されている。国会図書館デジタルコレクションでは 4 分割し収録されている。これらをコピーし繋ぎ合わせて図 1 に示す。原図は横長の地図で東を上に山形県全体が収められているが，90 度右に回転し上方が北になるようにし見やすくして示した。文字が横向きになり，縮小したため文字が判別しにくいので主要な地名を加筆した。また，震災・水災の範囲・時期を着色して示す。

欄外に酒田の市街図が掲げられ地震による焼失区域が記されているが不鮮明である。酒田の地図については，①荘内震災録 [2] にも同様な地図が示されているが，道路は単線で描かれており別物である。出典は記されていないが直後の新聞記事によるものと推察される。震災予防調査会報告の中村・辰野の報告 [12] の付図「酒田震災一覧」が欄外の図に類似しており簡略化したものと思われる。なお，北原 [8] によるとこの図の原典は酒田市立光丘文庫所蔵の図幅を引用したものとしている。

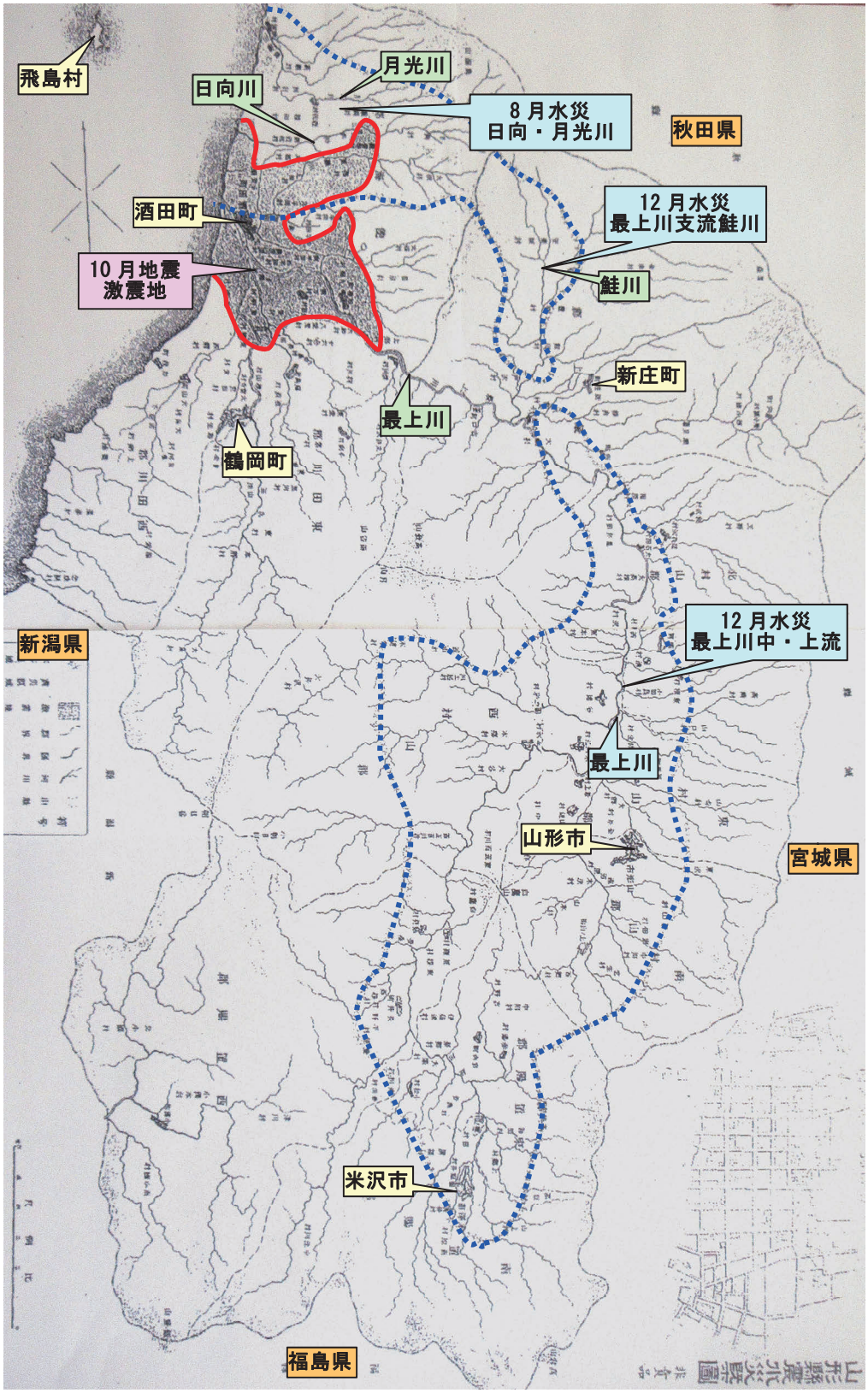

図 1　山形県震水災概況の付図に加筆（原図は上面が東，90 度右回転表示）

6. まとめ

本論では，1894 年庄内地震の直後に地元で出版された地震および災害に関する地域刊行物 5 冊について紹介し比較した。地震発生 3 週間で新聞記事などの情報を取り纏めたものから，多くの情報を取り纏め翌年に発刊された大部なものまである。本論では水害など他の災害を含む「山形県震水災概況」に着目して内容を紹介した。5 月の山形市の大火，8 月の飽海郡の水害そして 12 月の最上川中上流部の水害も含めて詳述されている。飽海郡では 8 月の水害の被災域が 10 月の地震の劇震域と重なっており，災害を大きくしている。

2024 年 8 月 25 日の庄内地方の水害では，鳥海山麓を流れる月光川，日向川の名前が報じられた。130 年前の庄内地震の直前に同河川の水害があったことは特筆に値する。

文献

1）水田敏彦・鏡味洋史：1894. 10. 22 庄内地震の被害調査報告および関連資料の文献調査，日本建築学会技術報告集，17−35，407−710，2011. 2.

2）太田文輔：荘内震災録：17pp，1894. 11.

3）鶴廼舎主人述菅原敬敏編輯：東西田川飽海三郡甲午大地震記，53pp，1894. 12.

4）両羽震災取調所編纂日向源吉編：悲愴惨憺両羽地震誌，159pp，1894. 12.

5）佐藤多治郎：荘内明治震災録，48pp，1895. 2.

6）渡辺九十九：山形県震水災概況，202pp，1985. 2.

7）岸上冬彦：1894 年の庄内地震の研究，東京大学地震研究所彙報，39，227−233，1958.

8）北原糸子：災害と写真メディアー1894 庄内地震のケーススタディー，神奈川大学 21 世紀 COE プログラム研究推進会議調査研究資料 1「環境と景観の資料化と体系化に向けて」，71−126，2004. 12.

9）高田可恒編：山形県荘内実業家伝，実業之荘内社，153 p，1911. 2.

10）船山耕作：山形県之自治，藤島村，187p，1913. 9.

11）須藤良弘：渡辺九十九，荘内日報社：郷土の先人・先覚 250，1991. 8 掲載
郷土の先人・先覚 250　《渡辺九十九》｜荘内日報（2025. 1. 11 閲覧）

12）中村達太郎・辰野金吾：山形県震災被害調査報告，震災予防調査会報告，7，15−30，1895. 12.